

# 京交山岳部報

No 408

(第1604回例会)

'86 10月号

## 土蔵岳△1008mと△1065.4m

日 時 10月4日(土) 集合 烏丸車庫 AM 5:30  
コ ー ス 烏丸一名神 I.C-木之本 I.C-国道303号-金居原-土倉谷-  
△1065.4m-土蔵岳-往路下山  
担 当 者 烏丸 大倉寛治郎(889) 491-0430まで  
申 込 10月2日までに担当者まで、  
備 考 マイカー使用。土倉谷を△1065mの三角点までつめたいと思います。  
沢登りの出来る服装〔ワラジをわすれず〕、地図は5万横山、  
2万5千 美濃川上、近江川合です。

(第1605回例会)

## 小野村割岳△931.7m

日 時 10月12日(日) 集合 壬生 AM 7:00  
コ ー ス 壬生-広河原下之町...早稲谷川...小野村割岳...往路下山  
担 当 者 本局 大槻雅弘(722)  
備 考 マイカー登山、参加者は連絡願います。

### 今月の集会

インドア 「テーピング」 鷺見敏一

10月 9日(木) PM 6:30 厚生会館 4F

### 11月の集会

インドア 「山の天気」 田中忠久

11月 10日(月) PM 6:30 未定

### 企画運営委員会

10月 20日(月) PM 6:00 厚生会館 4F

(第1606回例会)

### 秋山集中登山大会

## 御 岳

日 時 11月1日(土)・2日(日)・3日(祝) 集合 八条口 AM 8:30

コ ー ス A班、王滝口から。 C班、濁河温泉から。

B班、黒沢口から。 D班、(パレーショングルート一尺ナズ谷)

行 程 [1日] 各班共京都発(0900)→各登山口にて幕営

[2日] (A班) 田の原(0600)→王滝頂上→頂上(0930)→飛騨  
頂上( )→継子岳→三の池→中の湯(1600)

(B班) 中の湯(0600)→頂上(1000)→飛騨頂上( )  
→継子岳往復→濁河温泉(1600)

(C班) 濁河温泉(0600)→飛騨頂上(0900)→頂上( )  
→王滝頂上→田の原(1600)

(D班) 別途計画

※ 各班共登山下山口にて車を交換。

※ 各班共下山口→野麦部落民宿に集結。

[3日] 野麦(0700)→野麦峠(0730~0800)→奈川渡→平湯(0930)

↔乗鞍岳往復(1000~1300)→平湯峠(1330)→高山(1430)

→下呂(1530~1600)→中津川(1700~1800)→京都(2100

予定)

担 当 者 CL=岡田 L=A班 B班 C班 D班

備 考 錦秋の飛騨路をたどり、御岳、乗鞍岳と壮麗な3000m峰を二つも訪ね、  
幕営と野麦部落での宿泊を含めた豪華なプランです。行程はゆっくりと  
とってありますので是非多数ご参加下さい。

※ 都合により上記の行程は変更することがある。

※ 即日帰京の班も希望者あれば考慮。

※ その他詳細は参加希望者には別途通知。家族づれの参加も可。

※ 参加希望者は10月11日までに岡田(TEL 3282)

大木(TEL 859)まで。

※ 費用は10,000円

※ 民宿を取り止めて野麦峠で2泊することも考慮している。

11月以降の例会予定 (詳細は11月号に記載します。)

○ 11月14日(金)~16日(日) 台高山脈大和支稜 荒谷山△1267.2m(2万5千  
(京都山ノ会と合同登山する予定です) 河合) マイカー利用 担当 大槻 雅弘

○ 11月21日(金) 三十三間山 担当 大倉寛治郎



## メタセコイヤ

岡田 茂久

局本庁舎の中庭正面に、クリスマスツリーのような三角形の堂々とした樹形の大きな樹が繁っているのをご存じでしょう。ちょうどこの季節から赤茶色に紅葉し、晩秋には小枝ごと落葉し掃除が大変だときいています。

これがメタセコイヤです。裸子植物、スギ科の落葉高木で和名をアケボノスギともいい生きていた化石植物として有名で、その化石はいまから200万年前の新生代の氷河期といわれる太古。人類がこの地球上に始めて姿を現したころの地層にブナ、ナラ、カシ等の現生する植物の化石といっしょに、この京都盆地周辺の地層でもたくさん発見されています。しかしこのメタセコイヤは氷河期が始まるとすぐ絶滅したものと思われてきました。このメタセコイヤの化石を始めて発見されたのは、京都の三木茂博士という生物学の先生でした。ところが1945年に中国大陸の揚子江中流域で生育しているのが発見され、戦後にこの三木博士のもとに送られてきたものが京大理学部の植物園に植えられ、それから挿木で増された苗が『生きてる化石の木』として有名になりあちこちに増殖され枚方の植物園では立派な林にまでなっています。そのうちの挿木の一本が局庁舎の中庭にもいつの頃か植えられたものようです。

なぜこんなことを今月はというと、先日私の宝物の古い雑誌（『少年世界』ですぞ！）を愛でているとこんな写真記事が目につきました。『世界最大の木。アメリカの国立公園にあるセコイヤ… Sequoia…。高さ110m 径8m』とあり、大木の根元にあけられたトンネルの旧形のフォードがくぐり抜けている写真があったことから、ふと局の中庭の木を思い出したのからです。

メタセコイヤ…meta sequoia…のmetaは変化したものという意味ですがセコイヤの親戚だけあり、この木は条件がよいと非常に成育がよく一年に1m以上も伸びるということももうなずけることで、私が本課勤務であった昭和50年頃、この木が真横に見える私の二階の席からは梢がちょうど見え隠れしていたものですが、いまではもう四階の屋上を越えるまでになってしまいました。よほど交通局は居心地がいいんでしょう。

将来大きくなり過ぎて切り倒すはめになったとき、ひとつ山岳部がいただいて山小屋でもたてますか。しかしそれまでにたくさん捜木をして子供を増やし京都の緑を守りたいものです。

11月以降の例会予定（詳細は11月号に記載します。）

- |             |                |          |
|-------------|----------------|----------|
| ○ 11月23日(日) | 三国岳(丹波 県境シリーズ) | 担当 津田、大木 |
| ○ 11月30日(日) | 雷 倉            | 担当 大槻雅   |

## 第1595回例会

# 塩見岳

渡辺 智生

〔第1595回例会〕南アルプス「赤石岳」部報に掲載されたもの大して気にとめることもなく、まして参加するなど考えもしませんでした。（南アルプスは長丁場でしんどいからやめとこ…）

何時の頃からかその気になり同姓の同行者（大槻氏）2名と車中の人となりました。小渋川を廻りし百閑洞から赤石岳（ $\Delta 3120m$ ）へ最低数回の渡渉があるので、わらじ又は地下たび持参、小渋川の水量により数回どころか全身水びたしもあると担当者から言われ、その気になった時から覚悟はきめました。

7月18日 四国・九州地方は梅雨明け宣言とは言うものの梅雨明けの明けきらない空模様を気にしながら出発しました。今日の天気といっしょに行ったら天気は良いだろうと希望的観測をしながら…（ぬれたら、ぬれたでええわ！）

昨夜、現地にお問い合わせしたところ、小渋川は水量が多くてため、小渋川に流入する各谷筋が渡れない、渡渉どころではない。現地の人は「やめときなはれ！」と、それではコースを変更して塩川から三伏峠を経て塩見岳へのコースはどうですか？ この道も途中で泥出流ありバス路線が寸断されています、歩いてなら行けます。

車中での担当者の話もかんばしくありませんが、午後10時頃には中央高速道松川ICから塩見岳山ろくの大鹿村、鹿塩なるところに着きました。道路のそばを流れる塩川は増水して夜目にも濁流が岩に砕ける音と、大型車両迂廻の看板が気にかかりました。

その夜は塩川に沿って塩湯温泉を過ぎ、山村の公民館らしき建物の前庭で泊りました。（鹿塩、塩川、大塩、山塩、塩湯…塩見岳と塩ばかりや）

翌日、更に塩川上流へ入り、華沢小屋に車を置き、待てど姿の見えない路線バスをあきらめ、商い上手のおはさんの軽トラックで道路崩壊地点まで送ってもらいました。（3名の運賃しめて ¥600.なり）

まづは、昨日崩れたばかりで小山のように盛り上っている泥出流の上を越え歩きました。小高い丘の上に建てられた塩川小屋を左手に見ながら忘れられたように立つ塩川バス停のそばを通り、更に塩川を廻りました。

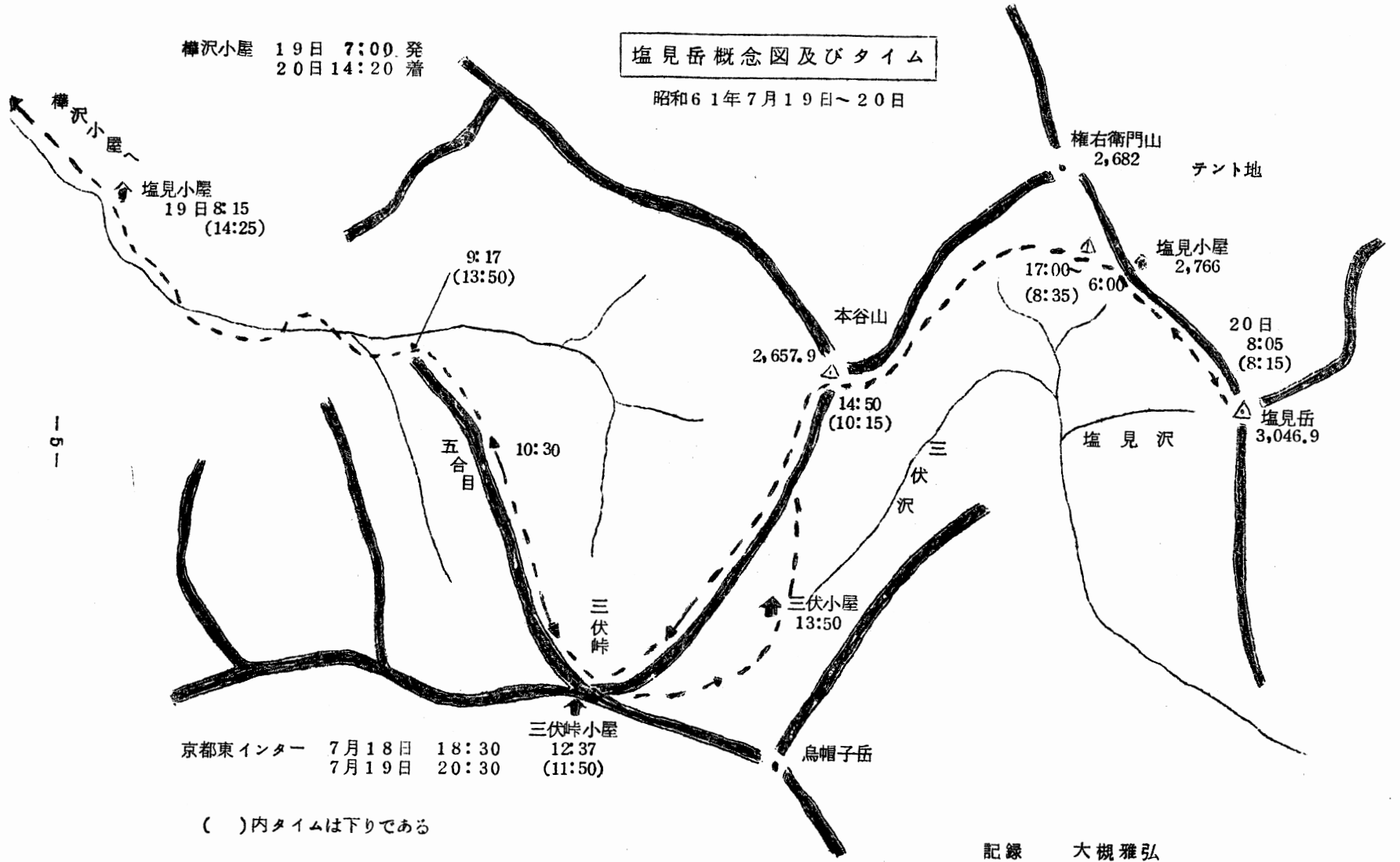
塩川に沿って右岸を歩き、丸木橋を渡って左岸へ、盛り上がるような水量を見ながら右岸へ、岩をかむ急流に歓声をあげながらの歩行が続きました。（水が多いな、渡渉どころやないわ！…納得）

このあたりは、兩岸とも塩川の流れを切りぎざむように砥草の群生が見られました。

やがて、塩川と岐れて右手の尾根筋へとり、そこから長くて辛い急な登りがはじまりました。それはジグザグにぐんぐん高度を稼ぎ、真夏日にしては木陰の比較的涼しい登りでした。（暑いな、）

# 塩見岳概念図及びタイム

昭和61年7月19日～20日



( )内タイムは下りである

記録 大槻雅弘

151

(あーしんど、もうちょっとがんばろ) 何回かの休息をくりかえし、塩川の音が遠くなった頃登りもやや緩慢になり、トラバースぎみに右手へまいたところで三伏峠小屋の脇を抜けて三伏峠に着きました。(日本で一番高い峠やて)

三伏峠小屋は床が高く造られた立派な小屋(有人)で2~3組のパーティが静かに休んでいました。休憩の後、三伏沢に沿ったゆるやかな下り道を進むと樹林帯の中に突然右手がデルタ状に草原が開けシナノギンバイが咲き乱れるお花畑、その中に一本立っていたダケカンパの白い幹が印象的でした。

前方にはめざす塩見岳が谷をへだてて望まれ、胸の高鳴りをおぼえる一時でした。(塩見てええ山やな!)

三伏沢のきれいな流れに沿って三伏小屋(無人)を過ぎたあたりから本谷山(2657m)への登りとなり、三伏峠から尾根づたいに三伏山を経由する道と出会い、しばらくブッシュの中で暑くむせかえるような登りが続きます。

天気はまづまづで、前方に塩見岳が見えかくれし、遠く富士山のシルエットが望まれるなど眺めは最高です。

本谷山は360°の拡大な展望が開け、我々を満喫させました。(わあー南アルプスの風が吹いてる)そこからは尾根筋のゆるやかな下りとなり樹林帯の静かな捲き道が半円状に続き、はじめ前方に見えた塩見岳が右手から後方に移動するまでの長い道程でした。

中俣の源頭と思われる水場を過ぎると左手へ確実な塩見岳の登りとなり尾根筋に出ましたが空模様は悪くなり日没も早そうなので、塩見小屋手前5分ほどの所に適当な幕営地を見付け泊ることにしました。

翌朝、塩見小屋で小屋に隣接する幕営地では夜中、テントで寝れぬほどの風雨に見舞われたことを聞き、我々は快適な一夜を過ごしたことに満足しました。

翌朝、小雨の中雨具を着けて行動開始しました。塩見小屋を左直下に見ながらやせた稜線を天狗岩へ登りました。岩を踏んで確実なベイント標示に導かれ到着した塩見岳頂上(西峰)は広大な展望の期待もむなしく360°全てガスでした。(…!)

下りはもと来た道を忠実に下り、テント撤収後本谷山から往路とは異なる三伏山を経由し、三伏峠につきました。

その後気の遠くなるような下りを下り、塩川におりた頃再び雨となりました。(南アルプスは、しんどいけどええわ)

## 夏山大会 涸沢合宿

三橋 勉

年中行事の夏山。今年は横尾合宿でそれぞれ自由に好きな山行をと計画したが、参加者が少なくなったので一つにまとまって行動しようと涸沢合宿に計画変更した。

8月1日京都を20時に車4台で15名が分乗して出発する。中津川から藪原、境峠経由で2時ごろ沢渡に到着した。夜空のキラキラ輝いている駐車場でテントを張り、ようやく寝ついたと思ったとたん起こされる。

早速テントを撤収してバスに乗り込む。夏休みの為か家族づれが多くて補助席に2人ずつ坐らされキュウクツな思いで上高地に到着する。早朝なのにもう大勢の人達でにぎやかな河童橋付近で朝食をすませる。

今年の参加者は平均年齢が49歳という中高年メンバーで若手の参加がないのが残念である。それでも全員元気に出発する。

朝日の当る明神岳や梓川のせせらぎを耳にして涼しい散策路を歩いて行くとやはり夏山は高い所にやってくるべきだと思う。4年ぶりに思い出の徳本峠入口で休憩する。当時、島々から徳本峠へ登りたいと思って来たが雨のため、やむをえず予定を変更してこの道から登って行った事を思い出す。

林のトンネルを歩き、キャンプ場を過ぎた所が徳沢であった。それからしばらく進むと川そのの道が、くずれている個所に出た。「この地点は、谷に降りる迂回路になっていた」という話を聞きながら、急ぎ足で通過する。やがて横尾には10時ごろ到着した。山荘前で少し早かったが、昼食をした。電話で今日の夕食の予約を涸沢ヒュッテにした。(今回の山行はテント持参の小屋で食事という方法で少しでも荷物を軽く行動しようと考えた。)

いよいよ本流の橋を渡ってこゝから横尾本谷に入って行く。ゴロゴロした石の河原の所に、横尾の岩小屋がある。昔こゝでピクニックをした人があったのか。岩が河原のすぐそばなので増水時は使用できないと思った。

こゝから河原をはなれて脇道となり歩きやすくなった。丁度、屏風の壁が谷を隔てた向い側にすごい迫力で見える。やがて丸太を組み合わせて掛けてある本谷橋を渡ると大勢の人達が休憩していた。

こゝから急なジグザグ道を登るとトラバースぎみに進むようになり、やがて横尾本谷と別れて涸沢の方向にカーブして行くと雪渓のある穂高の山々が見えてきた。

谷の水に手をつけるとすごく冷たい。タオルをぬらして頭にのせると気持ちいい。もうひとガンバリでテント地に到着であると思ひながら登るが、近いようでなかなか到着しない。それでも何とか一番最後に登って行くと、何とテントだらけなので、一ヶ所に我々のテントを張れない。各班思

い思いに別々に張っていた。

ゴロゴロした石のある地面なので設営には小石を取り除いたり、いろいろ細工を施すのに苦労した。それでもテントを張り終わると夕方までのんびり何もする事がないので、ハメをはずす結果となり、日暮れに診療所にかつき込む患者が出て、大さわぎとなった。

翌日、二日酔いのA氏をテントキーパーに残して、奥穂高に出発する。滝沢小屋の前を通り、5月の連休以来の雪渓を踏みしめて登って行く。ふりかえるとカラフルなテント村が小さく見えている。ザイテングラードの尾根は、登山者の列で順番待ちのおかげで、急な登りも一ぶく出来て助かった。白出のコルの奥穂の小屋に到着すると、先発していた大槻、井戸組と合流した。彼らは仕事の都合で本日、下山予定なので先発したのに追いついてしまった。

奥穂高の登りは、こゝから見上げる岩場の急登で、鉄ハンゴがある急な登りである。団体が降りてくるのを制して、上り優先と言う事で先に登らせてもらう。

高度が上るにつれて付近の展望が開けてきた。昨年登った笠ヶ岳がよく見える。ふりかえると滝沢岳から北穂高、そして楢ヶ岳が高度を上げる毎に大きく立派に見えてくる。

そして富士山が見える。今日は何と素晴らしい日であろうか。苦労して登ってきた甲斐があったというものだ。頂上付近は人が多い。それでもジャンダルムを目前に北穂高、焼岳その向りに乗鞍岳そして御岳山、中央アルプス、南アルプス、八ヶ岳とすばらしい展望である。真下に梓川のカーブを描いた流れと上高地がよく見える。前穂高と北尾根のコブ尾根が屏風の頭へと続き、その向うに蝶ヶ岳、常念岳から大天井、後立山連峰、剣、立山、薬師岳と北アルプスを全貌できる。

昼食をしていると、「夏山ジョイ」の来月号にのせますので写真を写しますという事なので頂上のお社をバックにして魚眼レンズで撮ってもらった。

充分山頂で展望を楽しみ、なごりつきない思いであったが下山する事になった。下山は登りより早く、またたく間にザイテングラードの下に降りた。お花畑の前で休憩する。前方の岩場でロッククライミングをしている人がいる。

雪渓では5月に滑ったように尻セードで滑って降りた。始めての人はコワコワ降りているので慣れるまで大変である。それでも全員無事にテント地に到着し、テントを撤収する。登りにあまり変らぬ荷物で下山する事になった。それでもやはり下山は早い。横尾ではまだ明るいので徳沢まで行く事になった。

例によって横尾で夕食の予約の電話をする。徳沢に到着してテントを張り終えたら丁度、夕食の時間であった。夕食後、星をながめるのを楽しみにしていたが雲が出てきた。それもそのはず台風がきていて例の関東地方に集中豪雨が翌朝降っていた。

よくこゝまで下山しておいて「よかった」と思いながら雨の中、傘をさして上高地まで歩いた。バスで駐車地点の沢渡に戻り、雨のドライブで野麦峠にて昼食後、国道41号線の下呂温泉で露天風呂に入り、中津川経由で帰ってきた。今回の山行は、いろいろアクシデントがあったがこれを教訓にしてあまりハメをはずさぬように楽しい山行をしたい。



〔奥穂高岳登山コース・タイム〕 昭和61年8月1日(金)～4日(月) 記録 奥村

8月1日 壬生 20:08 - 京都東 I C 20:35 - 中津川 I C 23:13 -  
8月2日 藪原 0:47 - 奈川渡ダム 1:45 - 沢渡(仮眠) 1:55 ~ 5:28 - 上高地(朝食) 6:10  
~ 7:03...白沢出合 7:47 ~ 8:00...徳沢 8:40 ~ 9:00...横尾山荘 9:52 ~ 10:36...  
本谷橋 11:46 ~ 11:56...横尾本谷正面(昼食) 12:24 ~ 12:47...酒沢テント場(幕  
営) 14:20 (夕食) 17:30 (就寝) 21:20  
8月3日 (起床) 4:30 (朝食) 5:30 出発 6:45...雪渓終端 7:23 ~ 7:30...ザイテン  
グラート取付き 7:45...R 8:21 ~ 8:35...白出乗越(穂高岳山荘) 8:55 ~ 9:08...  
奥穂高岳 3190m 9:45 ~ 10:15...白出乗越 10:45 ~ 11:05...ザイテングラート終  
り 11:46 ~ 12:00...酒沢テント場 12:40(テント撤収) 出発 13:30...横尾本谷正  
面 14:15 ~ 14:30...本谷橋 14:50 ~ 15:05...横尾山荘 15:55 ~ 16:15...徳沢(幕営)  
17:10 (夕食) 19:00 (就寝) 22:20  
8月4日 (起床) 4:30 (朝食) 7:00 出発 7:35...白沢出合 8:10 ~ 8:18...河童橋 8:58  
~ 9:10...バス・ターミナル 9:20 - 沢渡 10:10 ~ 10:22 - 野麦峠(昼食) お助け茶  
屋 11:18 ~ 12:05 - 下呂温泉露天風呂 14:28 ~ 15:38 - 中津川(夕食) 16:52 ~  
18:00 - 中津川 I C 18:07 - 養老 S A 19:15 ~ 19:42 - 京都東 I C 20:46

〔参加者〕

岡田、和田、三橋夫妻、上島、今井、大槻テイ、井戸、出海、方山、原田、台川、津田、  
武田マサ、奥村 計 15名  
但し 大槻、井戸の2名は3日より別行動

## 爽快なジャンダルム

大槻 貞 従

8/3 快晴、AM 6:20 井戸、大槻2人は、今日の夜行列車で帰京する必要上他の11名とは別行動するため、一足先に酒沢を後にした。朝日に黄色く輝く北穂、酒沢檜、酒沢岳、奥穂、前穂をわくわくしながらパノラマ写真に収めた。まだ沢山残っている雪渓の白さがカールの広さを引き締め、ほのほのとした緊張感をかもし出している。昨日スキー合宿している若者達の嘆声、この圏谷を活気づけていた。ザイテングラードを登って、8:40奥穂山荘に到着した。他日、投宿するかも知れない気持ちがあったので、建物の中をのぞいて見たら、しっかりした寝持良さそうな室が美しく整理されているので、安心した。

9:00発、9:35奥穂頂上着、9:45頂上発、ジャンダルムへ向った。このコースは人が少ないので、別世界の感がたまた冒険心を満足させてくれた。しばらくして馬の背といわれるナイフリッジを約30m通過したが、荷物さえ軽ければ慎重にバランスよく歩けば危険な所ではない。次に「ロバの耳」への登りが、三点支持を確実に守り、浮石に注意しながら登った。ガラガラ石積

みの目前に異様な形のジャンダルムがせまってきた。スッぱり切れ落ちた両側の左側を一たん向側へ通過してから戻る形で、10:35 ピークに立つことが出来た。ストレートでピークに立つには、ロッククライミングの心得がなければ無理である。10人ぐらいが座れる広さの平らな頂上からは楢ヶ岳、笠ヶ岳、西穂、上高地 etcが、はるかかなたに見える。しかし、今まで毎年、他の山々からこのジャンダルムの姿をあおぎ見ては、いつの日か行けるだろうかと夢見ていた想いが一度にこみ上げてきた。感無量であった。歌に唄われ、絵に描かれたこの前衛峰はやはりスバラシイ。ここでのんだ一ぱいの水のうまいこと。千金に値する。他の山頂とは違い緊張感が身体をしばっているようだ。名残りを惜しんで、11:00 発った。危険箇所にはクサリが施されており安心だ。

今来た道に戻って12:00 奥穂山頂に立った。やっと緊張感から解放された。ここまで来ると俗世界に戻ったようなイヤな気分がひき込まれるのはどうしようもない。早々と人のいない場所へ逃げ出そう。前穂への吊尾根から重太郎新道の単調で長いおもしろくない赤土道を岳沢ヒュッテへ下った。京都で練っていたルートはジャンダルムから天狗の沢を降りて岳沢を下る計画をしていた。さぞ静かで迫力があっただろうと想像すると残念だ。

山小屋の主人「今年は雪が多く、しかも、まだかなり固く危険だ。ビッケル、アイゼン携帯でなければ、滑落する危険あり」との山荘の忠告に耳を傾け、よすことにした。

慎重派の私は早くから天狗沢下りはあきらめていたが、若い井戸さんには、あきらめきれなかったようで、「山小屋は、オーバー目に言うんですよ」。山小屋の主人「あのコースは秋のコースですよ。今は降りることは出来ませんよ」。

上高地着18:00 松本発、1:05 ちくま(急)で帰京7:45。ゆっくり座れた列車でなんとか寝込むことも出来たのが意外であったがうれしかった。というのは、私も最近はどこでも寝られるように訓練されたのだろう。しかしこういう特技を生来持っている人は得ですな。

## 再び尾瀬へ

### 燧ヶ岳から三糸の滝

吉 田 武

昨年の感激をもう一度… 今回は山小屋で2泊するために7月の初めに山小屋をキープした。一つは尾瀬沼東岸の長蔵小屋、もう一つは以前厚生会登山でお世話になった温泉小屋とした。京都東ICより名神高速より中央自動車道の小淵沢ICで降り八ヶ岳道路を走行して天女山の三角点で昼食をする。5月に来た時には雨上がりなので富士山や南アが良く見えたが、今回は大気が汚れているので見えない。野辺山、小海、そして佐久市を越えて御代田町からはR18号を軽井沢へ、それからR146号を長野原へ向う、浅間山を見ながら快適に走行するので窓を開けてオゾンを一掃しながらのドライブである。長野原からR145号を中之条、そして沼田市へ進む。PM4時20分頃に霧に合ひ、パチンコ玉位の大きさで見える見るあいだに道路は白くなって車に当たる音が

恐いので車を停めて電がやむのをまった。沼田からはR120号で椎坂峠を越えて鎌田へ、戸倉のスキー場でテントを張る。

AM5時30分にテントを撤収して鳩待峠へ行く。2日間車を置いて尾瀬を周遊するので忘れ物がないか確認して出発した。尾瀬で一番きれいなコースで人も少い鳩待峠から鳩待通りを歩く1時間あまりは樹林帯で景色は良くないが、横田代あたりからアヤマ平までの間は何度歩いても気持ちの良いコースで僕のお気に入りのコースである。西には至仏山、東に燧ヶ岳、そして南には湿原と日光連山、北は平ヶ岳、そして越後三山が見えている。

ゆっくりと歩きたいのだけれども尾瀬沼の山小屋まではまだ半分も来ていない、富士見小屋で昼食をとり白尾山へ向った。このコースもあまり歩かれていない皿伏山の下りあたりからチラチラと尾瀬沼が見える。皿伏山から約1時間少して尾瀬沼の周遊コースに出た。子供達もやや疲れていたが沼の景色を見て気分を良くして歩き出す。三平峠下で軽食をとり写真を写しながら本日の宿泊地長蔵小屋へついた。土曜日なので大変な混雑であったが予約しておいたので6畳の部屋と2畳位の板間で東京のファミリー4名との相部屋で十二分に寝られた。

AM5時に起床して6時に出発、今回のメインイベント燧ヶ岳登山である。ゆっくり登って約3時間長英新道を登る。初めのうちは樹林帯の登りで2時間程登るとミノブチ岳についた。少し雪渓があったのでビニール袋に詰めてその中へ缶ビールを冷して最後の登りにかかった。組品へ約30分と道標に書いてあった。頂上には多数の人が眺望を楽しんでいた。

二等三角点燧ヶ岳パンザイ、眼下に尾瀬沼と尾瀬ヶ原が見え、南西方面に至仏山、西方のかなたに谷川岳が雲の中にある。北西に越後の山、東南には日光連山がくっきり見えている。よく冷えたビールを飲んで下山にかかる。燧ヶ岳には4つのピークがあって一番高いのが2360mの柴安岳でその次に三角点のある組品で2346m、そしてミノブチ岳と御池岳である。目前の西方に最高峰の柴安岳があって温泉小屋へのコース上になっている。

ビールを飲んでゆっくりと下山にかかる。一度50m程下って又65m程上った所に柴安岳がある。尾瀬沼と尾瀬ヶ原が一度に全部が見られるピークである。柴安岳からは下りばかりで120m程南南西に下ると御池岳につく、これより見晴親道と温泉小屋道の分岐で少し道は悪いが温泉小屋道を下る事にした。康一には歩けそうもないので途中まで背負う事にした。約3時間の道のりで子供達もまだかまだかと聞くので「もう少しだ」と言いながら歩かした。

組品を出発したのが12時なので3時には小屋につけると思っていたが、子供には長い下りであったと思う。3時前に小屋についた。予約券と宿泊料を支払って部屋に入った。

今日は日曜日なので1部屋に1家族になった。荷物を置き往復2時間で行ける三条ノ滝へ今日中に行こうと思った。小屋より2.7kmの道で良く踏まれているが康一は歩くのに時間がかかるので背負う事にした。約45分で三条ノ滝についた。尾瀬ヶ原の水を集めて落下する滝は落差120mで巾は12mの堂々としたものである。小屋への帰路はやや上りきみで康一を背負いながら登った。約45分かかった。早苗と競走したが少しだけ負けた。風呂に入って食事を終えたら眠くなって来たので少し早いのが就寝した。

AM6時に起床したら雨が降っていたのでいささか不思議であった。小屋の食堂の所に「今日は台風のため燧ヶ岳へは登らないで下さい」と言い張紙がしてあった。台風とは……。

雨の中、尾瀬ヶ原を歩くのも又、おつなものだと言ひ聞かせて出発の準備をした。小屋の人が僕のザックを見て「お宅は京都市交通局の方で、以前に60名程つれて来られませんでしたか」と言うので、「その時リーダーで来ました。」と言ったら「あの時ハシゴを持って来た者です」と言ったので、その時の事をいろいろ話してしばらく時間を費した。

7時に小屋を後にした。東電小屋よりヨッピの吊橋を渡り西田代まで来ると雨も小降りになって来た。燧ヶ岳と至仏山も見えて来た、そして最後の登り口の山ノ鼻についた。子供達にジュースを飲ませて僕はビールを飲みながら休憩した。

鳩待峠まで1時間20分の登りで子供達も元気よく歩いてくれた。11時30分に峠についた。買物をしてそのまま車に乗った。本来なら日光へ行くつもりだったが雨が降っているので帰路する事にした。鳩待峠より小海線野辺山駅までノンストップで走り駅で記念キップを買って写真を写して又、帰路についた。諏訪湖SAで4時間程仮眠し、京都へ到着する時間を調整するため内津峠パーキングで2時間休憩して、5日AM6時30分に帰宅した。

#### 〔コース〕

- 8月1日 京都IC—小淵沢IC—天女山—佐久市—御代田—中軽井沢—長野原—中之条—沼田市—鎌田—戸倉
- 8月2日 鳩待峠…横田代…中ノ原…アヤマ平…富士見小屋…白尾山…皿伏山…三平峠下…長蔵小屋
- 8月3日 長英新道…ミノブチ岳…粗<sup>山</sup>岳…柴安<sup>山</sup>…御池岳…温泉小屋…三条ノ滝…温泉小屋
- 8月4日 東電小屋…ヨッピ吊橋…西田代…山ノ鼻…鳩待峠—鎌田—沼田市—中ノ条—軽井沢—佐久市—野辺山
- 8月5日 小淵沢IC—諏訪湖SA—内津峠P—京都IC—自宅

## 岩手の山々

坂井久光

8月5日～12日にかけて東北の岩手の一等三角点の山旅をしてきた。夜行列車を乗継いで東京へ。上野の普通列車東北線に乗継ぎ黒磯へ。ここから新幹線に乗り盛岡へ。田沢湖線に乗換えて雫石へ。東京の友人の紹介に依り民宿竹原(たかはら)の長沢新一氏を訪ねた。駅から車で10分位の農村に民宿はあり可成り大きく客も10人近くいた。氏は岩手県のスキー協会の会長や裏岩手山岳会の会長を務めており、村会議員や民宿組合長も兼ねている雫石町切っの実力者であり、岩手

の山にも精通していると東京の我会の友人から紹介を受けた。前もって電話していたので早速対面して話合ったが、岩手山に精通しているらしく弘文社の地図を作ったりしているが、全体的には精しくない。又民宿が忙しく案内出来ないとのこと。友人の話と大分食い違っていたが仕方ない。一泊して翌日8/7盛岡へ戻った。

駅前のバス乗場で東根山麓へのバスを聞いたりして昼頃のバスに乗り山麓の水分農協前で下車、西へ向って車道を歩く。突当って右折して北に向い果樹園の林道分岐に東根山登山口の標柱があった。林道をつめて杉林の山中に入り、左へ曲り崖の上で巾が狭くなり奥へ続く。雑木林に入り道も小道となり尾根を越し西側に廻り、谷川に沿って高度を上げ水場があった。途中K程が示され、最後0.8Kmは大きくZ状に登って小広い山頂へ。山頂には方向盤があり、晴天には鳥海や早池峰が見えるとか。三角点は南方の尾根続きに見えるピークらしい。道を探したが、藪がつるでからまりひどいので引返して下山し、カーブ地点から千島笹のブッシュを漕いで稜線へ。稜線に踏跡があり一旦下って上るとその先の藪中に木の三角点標柱を見つけたが石標が見当らず、汗の臭いを嗅いで雀蜂が2・3匹まつわり気持が悪い。一昨年の北海道の敵を岩手でとられるかと思った。

後に下り足に当って草の中に大きな標柱が見つかり写真をとり、すぐ下山にかゝったが見当をつけて下ったが往路に出ず、踏跡程度の古い山道を見つけて両側の谷の上に出て滝を高巻き支尾根を下って急崖を下り谷沿い林道の終点へ下った。この林道が長く途中崖崩れで不通ヶ所や支谷に可成の大滝を見てぐんぐん下りやとお宮が見え、用水路が現れて村に出た。登山口の少し南で、折よくきた車をヒッチして矢巾バス営業所へ。バスでバスセンターへ行き昨年泊った瀬川旅館に再び泊った。

この主人の瀬川氏も山好きで、友人のJACU会員佐藤敏彦氏と懇意とか。又私が盛岡の余り有名な山々を登りに来たので、以前佐藤氏が今西博士を案内したことがあり、同じ京都からなので私にその事を聞かれたので、ありの儘答へるとその佐藤氏を紹介すると云ってくれたが、夫人(JAC)の郷水沢に行つて留守とのこと、滞在中会へず仕舞であった。

翌8日、今度は東南の黒森山(点名 紫黒森 837m)へ向つた。バスの日詰行に乗り、Z部口下車。1日1回午後3時頃大ケ生迄バスが入るが利用出来ず、一里歩き覚悟していると後から車が来て久保田の公民館前の分岐迄乗せて頂く。盛岡の人でこの奥の持山へ作業に行くとのこと。Z部川の橋を渡つて南野へ行き、キャンプ場への道を辿り、牧場を横切り標識を辿つてキャンプ場へ。水は美しく冷いが整地されたテント場は少く便所や標識のみで無人の淋しい所だ。

黒森権現への道をとる樹林の良い道を登り、水場を過ぎ岩の現れる急坂を登ると大岩の洞穴がある黒森権現で附近の人々の信仰の対象となり、旱天の時等に参詣が多いとか。頂上はこの奥で後、652mの標柱があった。稜線に出て緩い上り下の末、最後の急坂を上ると展望所からの道と合して頂上三角点へ。都南村の山岳会の標識や方向表示板があり一等三角点が紫黒森の測量板の横にあった。展望は良い山だが、ガスがかゝり遠望はきかず、昨日の東根山も雲がぐれだ。ゆっくり休んで往路下山。公民館の少し先で又もタンク車をヒッチ、国道のバス停迄乗せて頂き、おかげで宿へは昼前に帰れた。

昼食を外でとり昼寝をして、夜は夕食後附近を散歩して就寝。

8/9 昨年11月積雪と登路不明の為引返した七時雨山へ向った。駅から花輪線の普通に乗って荒屋新町で下車。駅前のタクシーへ行くと無人で、車が一台あるのみ。呼ぶと店の人が出て皆車が出ているがと云って少し待って下さいとのこと。暫くして老人の主人が出て牧場の登山口(軽井沢経由)へ行くとのこと。前回と違ったコースで西側の牧場から登る地図の破線路で、田代平からの道は知らないとのこと。牧柵を2度開いて林道の分岐点迄送ってくれた。

後は林道をつめ牧場へ出てその端からの山道を登り、双耳峰の南峰(頂上)へ上り、一旦コルに下り北峰の一等三角点のピークへ。

草深い牧草を踏んで登り先の広い道を見付けて百米程登ると小道に代り標識があり、谷沿いに急坂を登り尾根に出て小さなジグザグを繰返して登ると草原帯となり展望が開けて頂上へ。権現の石像があり山頂の標示があったが、道はコルへ下り次の一等三角点へ続いて良い切開が続いていた。少時休んで三角点へ。眼下に田代平の牧場が一望出来、附近の山々も展望出来たがやはりガスがかかり遠くは見えなかった。岩手や姫神も雲隠れてここで昼食を喰べて田代平の方へ向って切開きを下山。途中九合目以下、合目や何軒の標示板があり牧場の入口が3合目で2.2km(頂上迄)とあった。殆んどが緩い尾根道で樹林の中を快適に下る。上部と下部がやゝ急坂だった。

牧場を横切り、道路との牧柵の戸を越えて車道を荒屋駅へ。途中水場で釣客の車をヒッチして駅へ。1時間程列車がないので駅やタクシーに行き、田代平の新道が出来ていたこと等話して列車で盛岡へ。

翌8/10 盛岡を出発、北上へ。ここからバスで夏油温泉<sup>グトウ</sup>へ向った。時間が分らず駅で大部待たされたが、温泉に着き、荷物を昭和館に置き早速露天風呂へ。夏油川原に湧く温泉は頂度入り加減で、滝の湯や大湯は熱くて入れない程であった。夏油と書いて夏<sup>グ</sup>トウと呼ぶのは数説あり、アイヌ語や夏湯を夏油と書間違へたとか、どうも昔の人は田舎でもあり、ありそうな話だ。風呂から上ると川風が爽やかで汗がすっとひいて心地よい。本当に天国気分だ。

今日は遅いのでのんびり温泉の梯子をして洞窟温泉や目の湯を廻ったり新太郎湯へも入ったが、家族や若いGALも水着を着て入湯していた。明日は早いので早々に就寝した。

翌11日 4時半起床出発。もう明るくなったが、宿は静かだった。

最初から急坂のジグザグで小尾根を登って石灰華への分岐に着き、先日の豪雨でここからの登路は崩壊で不通と警告があり、地図の通り、林道経由をとる。緩やかな登りで間もなく林道に達した。早朝の無人の林道を歩き続け少しは高度を稼いだと思ったら、最後はS字カーブで夏油川へ下って砂防ダムで終点となっていた。

橋が先日の豪雨で落ちたのか川沿いに踏跡なく右の山手の踏跡を辿った。段々高巻き気付くと、100mばかり登ったが先にカレ場がありトラバースは出来ず、東に上部迄高巻きしなければならず、一休みして地図を開いて見たが、どうも道ではなさそうだ。

朝からのアルバイトで汗がひどく一休みして地図を開いて見て対岸に経塚山や駒ヶ岳が朝日を受けて聳えているのがよく見えるが、対岸へ達するには急崖を下る危険や渡渉も大変だし、焼石岳を

あきらめ(来年の7月の花見時に再挙)て代りに牛形山へ登って見ることにした。幸にブナやミズナラの樹林の斜面に踏跡が続くのでそれを伝い稜線に出て牛形山を確認した。根曲竹も現れ小さな登り下りが続き、ある鞍部から右へそれて小谷の源流の踏跡を辿った。坐禅草やヒメカユウが群生する湿地を登り白いヒメカユウが咲いていたのが珍しく、始めは水芭蕉かと思った。少し行くと小さな美しい水をたゞへる山間の小池に出た。池の岸をへずって奥に進み、手形山の山麓帯の一端に着き、小尾根の踏跡を伝って山頂を目指す。又小沢の源頭に出て湿地生植物の草原に出て一旦藪から離れたが、暫くして又藪の踏跡へ。少し登って山頂直下のガレ場の下の草原地に着く。ガレの急坂は登れず左端の草地の踏跡を辿り、又も支尾根に取付いて難行苦行の末、山頂近くでやっと道らしくなり傾斜も緩くなった上もう山頂で二等三角点があった。小憩後焼石岳への道を調べたが、踏跡も矮性の水ナラや菟松の枝を渡っている状態で一步あやまれば深い平地に沈没の状態で伏開きはなく好天時には尾根筋が見えるが、距離も遠く途中一泊の覚悟がいる状態で、あきらめて夏油温泉へ下ることにした。この山の展望は極めてよく、焼石岳・経塚山・天竺山等が一望出来る。天竺山への稜線もはっきりしたが、コースは既道だ。

急斜面のガレ場にはザイルが固定してあり、これを使って下山した。途中最初の水場で冷水でグリントィを作って飲み一休。後は緩い山腹を巻く道を下ると尾根筋に出て快適にブナ林を下ったが途中誰にも会はず、山腹を又トラバースしたりS字状に下ったりして最初の林道との分岐に出た。こゝで残りのおにぎりを食べて夏油温泉に下り、16時迄バスがないので、再び温泉めぐりをしたり日影で休んだりして時を過し、バス停近くでクリーニング店の車をヒッチして北上へ向い、手前のバス停迄送ってくれてバスに乗継いで北山駅に出て新幹線で仙台經由山形に行き赤湯で一泊、友人に翌日会って新湯經由翌日帰京した。

〔コースタイム〕

- 8/5 18:50 京都 - 20:51 ~ 21:01 大垣 - 東京 4:39 ~ 4:45 - 上野 4:51 ~ 5:09 - 8:09 ~ 8:39 黒磯 - 11:04 ~ 11:30 福島 - 13:12 ~ 14:14 盛岡 - 14:35 雫石 - 14:50 民宿竹原(泊)
- 8/7 7:40 出発 - 7:48 ~ 7:50 上長山 - 8:10 ~ 8:50 雫石 - 9:12 ~ 9:50 盛岡 - 10:04 ~ 12:05 バスセンター - 12:52 水分農協前 - 13:23 登山口... 13:45 ~ 13:50... アト 3.7km ... 13:54 分岐... 14:31 1.8 km... 14:51 0.8 km... 15:08 ~ 15:10 東根山頂... 16:56 ~ 16:58 三角点... 17:20 大滝... 18:00 車道 - 18:15 ~ 18:20 矢巾営業所 - 18:55 バスセンター - 19:10 民宿瀬川(泊)
- 8/8 7:00 出発 - 7:05 ~ 7:10 バスセンター - 7:40 ~ 7:42 Z部... 7:59 おもいし橋(上南野線) 8:10 2,205 m... 8:40 キャンプ場... 9:01 652 m... 9:10 黒森大権現... 9:31 ~ 9:41 黒森山△... 9:56 ~ 10:00 大権現... 10:13 ~ 10:18 キャンプ場... 10:54 上大ヶ生... 11:00 公民館前... 11:05 ヒッチ... 11:25 ~ 11:26 津志田... 11:44 バスセンター - 11:49 民宿瀬川
- 8/9 8:00 バスセンター - 8:10 ~ 8:40 盛岡... 10:13 ~ 10:25 荒屋新町... 10:46 牧橋分岐

- 11:13 ~ 11:18 登山口… 11:45 ~ 11:50 七時雨山頂… 12:00 ~ 12:20 三角点… 12:30  
 九合目 1.4Km ~ 0.8Km (頂上へ)… 12:44 7合目… 12:49 6合目 0.5Km ~ 1.7  
 Km… 12:57 3合目 2.2Km (頂上へ)… 田代平入口 13:40 ~ 13:45 水場ヒッチ…  
 14:00 ~ 15:30 新屋新町- 16:39 ~ 16:45 盛岡- 16:55 バスセンター 17:05
- 8/10 6:50 バスセンター 7:03 ~ 7:23 盛岡- 8:19 ~ 10:20 北上… 11:22 夏油温泉- 11:30  
 昭和館(泊)
- 8/11 4:30 出発… 4:35 分岐… 4:42 林道 6.5Km… 5:15 4.5Km… 5:23 ~ 5:30 林道終点  
 砂防ダム… 8:57 ~ 9:00 湿原… 9:20 小池… 10:13 ~ 10:23 牛形山 2等△… 12:00 ~  
 12:08 林道… 牛形山 4.1Km… 12:18 ~ 15:40 夏油温泉… 15:49 ~ 15:57 藤栴十文字  
 16:19 ~ 16:36 北上- 17:29 ~ 18:07 仙台- 19:42 ~ 19:47 山形- 20:29 赤湯(泊)
- 8/12 12:50 今泉- 14:25 ~ 14:35 坂町- 15:55 ~ 22:25 新潟
- 8/13 6:39 京都

## 笛吹川東沢から甲武信岳へ

大槻 雅弘

人それぞれに、山を登る理由はあると思う。多くの人の中には、山を登るために理由はいらないと言いだろ。有名なマロリーの「そこに山があるからだ」主義でもよし。

ところが、最近私は少々理由、理クツをつけるようになってきた。一つけたがるようになったのかも。その山のどこがいいので登るのか、という自分なりの理由をつけ、納得している次第である。今回登った甲武信岳もそうであり、2・3年前から気になっていた山なのであった。

まず、何んと言ってもその理由の一つに挙げたいのは、甲斐国(山梨県) 武蔵国(埼玉県) 信濃国(長野県)の三県にまたがる県境に位置し、昔の地名の頭を採って「甲武信岳」とつけられた山名である。次に、その稜線直下まで突き上げている笛吹川東沢の溪谷美、別けてもナメ滝の美しいのに加え谷を溯行して登るルートである。三つ目には、まだ一度も入っていない奥秩父の山系に登りたかったこと、そのへソともいえる甲武信岳へ。

そのほか、いろんな理由づけはあるが深田久弥氏の「日本百名山」の一つであること。甲武信岳のとなりに一等三角点本点の三宝山があること。そして最後に、帰りのルートに「日本三大峠」と言われる雁坂峠があること、と欲張った理由である。

こうして、登る前にいろんなことを調べると、雑誌のタイトルではないが「山を10倍に楽しむ方法」とでもいいか結構楽しい山行が出来る。一先輩、諸兄には既に実行されていることと思えますがー

そこで、今回はメンバーを誰でもというわけにいかず、谷を溯行するルートなので、技術・体力



もいるので以前から約束していた吉田君に加え岡本義弘君と私の3人での山行となった。

遠いと思っていた奥秩父も車で5時間、登山基地に当たる東沢小屋に着けた。小雨のバラつきそりな気配の中、屋根のある所でテントを張り、当夜はすぐに眠りについた。

明けて8月23日。台風接近の天気予報もあったが、空を見上げると雲が多く出ているものの青空も少しあり、まずまずの天気と判断。どうせ沢のほりだから、少々濡れるかくごもあるし、夕立もあるだろう。その用意と心構えはしてきている。ただ、台風による鉄砲水は恐い。

いつ出発するとも時間を決めずに起きて、食って、用意が出来たら…とそれなりにまかせておいたら7時前になっていた。

「初めてこの3人のメンバーで登るなァー」と、誰からともなく喋りながらヘルメット、地下足袋姿で林道をつめているうち、西沢山荘から二俣へと着いた。東沢と西沢を分ける吊橋を渡って、すぐに東沢へと入谷する。西沢は釜とトロが美しく、最近観光客で俗化されつつあるらしいが、東沢はナメ滝が美しく、ハイカーでは歩けないこともあって、このコースはまだ俗化されていない。

少し、ひんやりとする水にも、心なしか久しぶりの谷に足元から快感を感じる。鶏冠谷の出合からは、左岸沿いに山肌を辿り山の神に着く。大木の根に、小さな祠があり、安全登山を祈り再び谷へ降りる。

ここから地下足袋にワラジを付けて歩く。東のナメ、西のナメと関西では見られない、スケールの大きいナメ滝が現れる。釜沢入口魚止の滝を過ぎると、この沢のメインともいべき素晴らしいナメ状の河床が現れる。しばし景観に見とれ、写真を何枚も写す。その美しい河床から1時間程で、東俣、西俣にかかる両門滝で昼食とした。本や、写真で読んだり見たりしていたとおり素晴らしい谷である。

前後して2パーティの人達と、追われたり、抜いたりしてミズン沢出合へ着く。水量はここまでくると流石に少なく、稜線真近を感じさせると共に、登りはきつくなる。前後して歩いて4名のパーティと最後は連なって小屋の水場に着いた。「小屋まで10分」の標識に元気づけられ、水を満タンにして小屋に到着。

白樺の小枝で細工され「甲武信岳」と書かれた入口をくぐり、テント設営の許可をもらう。900円也。熱いお茶のサービスをしてもらって、冷えた体を一時あたためる。

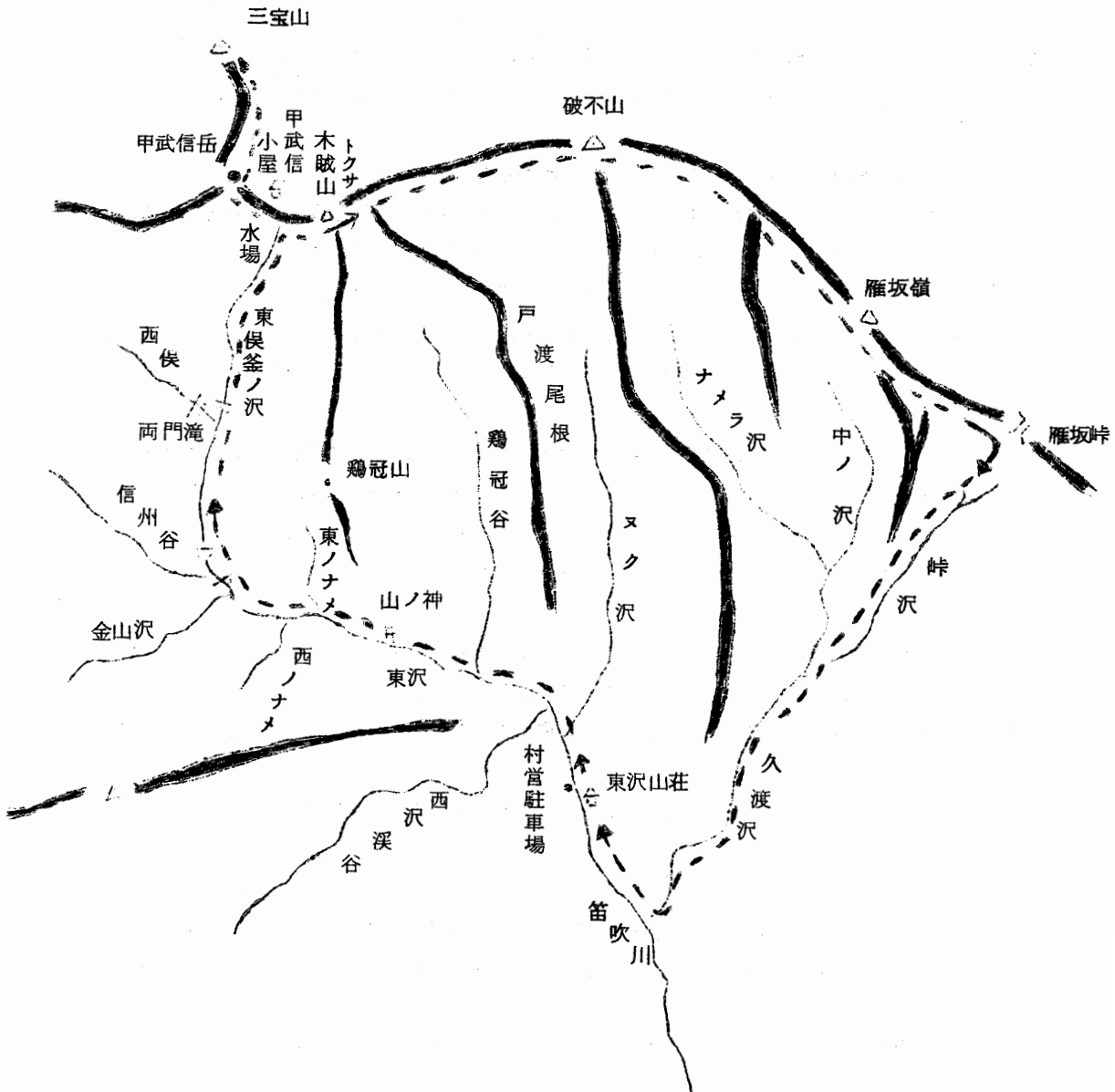
2400m近いこの小屋は、東京湾に注ぐ荒川源流でもあり、小屋の後の高台には立派な「荒川源流」なる碑もあった。その横にはこの高地で客用にか野菜が栽培されており、おまけに風呂まであって、びっくりした。おまけにテント地には、蛇口がつけられたタンクがあるのだ。これと言うのも水の便の良い地形であるからであろう。

我々は、食事を終ると、谷の行動の疲れが一度に出たのか、早々とシュラフにもぐり眠ってしまった。

8月24日

山の朝は早いのが常だが、昨夜も今朝何時に起きると約束もしなかった。いつもならうるさい程ワイワイ言うのに…。でも5時30分にはテントを出た。食事はテントに帰ってから摂るというこ

甲武信岳概念図



とでカメラだけを持って。

甲武信岳の頂に立った。午前5時45分。素晴らしい展望。日本一の富士山から二番目の北岳を主峰とする南ア、それに続く八ヶ岳連峰と目の前には秩父の主峰国師岳から金峰山、小川山と文句なしである。連続写真をパチリパチリ。これから登るもう一つの山、三宝山も目の前である。

甲武信岳をあとに、一呼吸で一等三角点本点の2483.3m三宝山に着く。せっかく速くまで来たのだからゆっくりしようと、キジを打ったり、写真を撮ったり、のんびりした。長くいたようでも、30分で三角点をあとにテントへ戻った。

小屋の前へテントを干しながら食事をしていると「今までテントを干したお客さんは初めてですよ」と、何かイヤミを言われながらも—それでも、こちらは速感しながら干したつもりだが—出発する時には笑顔で

「冬には又、来て下さい、氷瀑登りに」

「おおきに、京都から速いけど又、機会あればまた来まっさ」と小屋を後に木賊山<sup>トクサ</sup>へとスタートした。

本日の予定コースは、尾根を歩いて雁坂峠から降りる径を採った。—当初計画では戸渡尾根を降りる予定であったが—すぐに木賊山の三角点を過ぎる。後を振り返ると甲武信岳が、拳の様な形に見える。昔は一名「拳」と宛てられていたことを思わせる感じで見えるような位置である。

我々は、京都北山の森林美を常に見ているのでそうも思わず見過しがちだが、この奥秩父はよそで味わえない良さが森林にあると聞く。2週間前に登った北海道十勝岳、その2週間前に奥美濃、その前週に南ア塩見岳と、この短い期間に地域の違う山に登り、山の生態というか、山肌というか、木々の感じの違いに感心する。破風山の三角点をあとに、中には立枯れた径を、中にはゴロゴロした径を、笹の中を、森の中を進み、バット開けたところ、雁坂峠についた。

昼食を摂りながら、目の前のお花畑と語り合うロマンチックな、お花畑の美しいこの峠は、日本三大峠の一つと言われている。

(誰か、この三大峠と言われているイワレを教えてください)

[メモ]

私の調べた範囲では、簡単ですが以下のようです。

(1) 北アルプス、針ノ木峠 (2536m)

天正12年(1584年) 富山城主、佐々成政が越えた。

(2) 南アルプス、三伏峠 (2560m)

日本一高い峠である。(別山乗越 2740m 一ノ越 2680m)

(3) 奥秩父、雁坂峠 (2050m)

「甲陽軍鑑」によれば、武田信玄は国法に背いた者をこの峠より追放したという。

残りの食糧を整理するような昼食をすませ、高度2050mの峠から一気に久渡沢沿いに、R140号まで降りる。昔の径か、ゆるやかに山腹を辿るように左右にカーブしながら下っている。5

Km程の降り、汗を流しながら予定通り15:00時に国道に出ることが出来た。車止めの東沢小屋までは思ったより早くつけた。

今まで、静かな山の中を歩いて来たのが、いっぺんに都会に引き戻されたように、小屋前の広場は観光バスの団体客で賑わっていた。

汗もふかず、すぐに車を走らせ東沢小屋から10分程の所にある川浦温泉で一風呂浴びてキューと1ばいやった。格別の味わいを舌に残して、短い一時ではあったが充実したそしてバラエィティに富んだ奥秩父の山旅を終えた。

#### [コース・タイム]

8月22日 東インター(19:20)―(23:10)甲府昭和インター(24:00)東沢山荘 村営駐車場

8月23日 起床(5:30)―出発(6:50)…(8:30)山の神…(9:30)東ノナメ…(9:50)西ノナメ…(10:30)釜の沢入口…(11:45)両門滝・昼食(12:37)…(14:05)ミズシ沢別れ…(15:30)水場…(15:55)甲武信小屋

8月24日 起床(5:00)―出発(5:30)…(5:45)甲武信岳…(6:10)三宝山・一等△2,483.3m(6:40)…(7:15)甲武信小屋・朝食(8:40)…(8:53)木賊山三等△2,468.6m…(9:38)笹平避難小屋…(10:20)破不山三等△2,317.7m…(10:42)東破不山…(11:35)雁坂嶺三等△2,289.2m…(12:05)雁坂峠・昼食(12:55)…(15:08)久渡沢橋…(15:18)駐車場(15:25)―(15:35)川浦温泉(16:30)―(17:18)甲府昭和インター(21:40)東インター

#### [参加者]

大槻雅弘、吉田 武、岡本義弘

## 比 良 八 幡 谷

61. 8. 23

台 川 敦 美

前回の貫井谷の行動中もう一度沢へ入ろうと話が出て次は北隣りの八幡谷と決まり、広沢さんが我々の公休日に休みを調整して参加頂き毎度ながら全コースをリード願ひ安全に沢登りを楽しみました。

三京から梅ノ木まで京都バスに乗りますが、今回はボーイスカウトの団体さんと一緒に終点まで立ったままで疲れましたが愛想のよい運転手さんから(気いつけて行きなさいよー)の声に送られて気持よく出発、細川橋までは30分程国道を歩きます。橋からは舗装された林道を川に沿って少し進み、お社の所で着替えと身仕度を整えて谷に入る。9時50分。

初めは緩やかな流れで小さな滝が続き楽に進めます。リーダーの高度計を頼りに案内書の地図の写しで現在地と時間を確認しつつ(前回の失敗をくり返さぬ為)進行。

地図にある大きな枝谷は私には不明のまま二俣へ、此所はハッキリとY字型に分れて現在地を確認、しかしここから難所が多くザイルを使用… 前回同様に広沢さんがトップで中三人の方をユマールでお願いして私がシンガリ、リーダーより今日は一度トップを引きませんか?… いえいえまだまだ自信が無いので…と、そのあとの滝でリーダーの後についてフリーで進み水飛沫を被りながら… やはり動けなくなり先に登ってしまったリーダーへSOS、上からザイルを垂してもらってなんとかクリヤー、石橋を叩いてもなお油断大敵、生兵法は怪我の元との教訓を味わいました。

これより先は兩岸がゴルジュとなり高巻きも無理で一つの滝が低くても連続すれば相当な高さとなりランニングピレー点が良いところですが崩壊中の岩も多く、ポイント作りも難かしいのかも? しかし2・3ヶ所には残置ビンや捨て縄もありましたが、私がトップであればもっと多く残しておいてほしい気持ちです!自分で作れば時間がかかります、そのてんでフレンズは今回も有効に動いてましたが安全確保の為に欲しい用具の一つです。

これも毎度の事ながらピレー点なしのままフリーでザイルを引っぱって登るリーダーの足の裏には吸盤でも付いているのかと話題になりますが、ザイルで引っぱって頂く我々の足元はよく滑ります(引っぱってもらうという言葉に少し誤解があったようなので念の為に説明させて頂きます… この言葉は上部よりザイルを使い安全確保して頂く事でリーダーのウインチのような腕力とザイルで我々の体を引き上げるのではありません!!あくまで登るのは自分の足と腕を頼って行動します。… 岩登りの場合も当然です。インチキな登りと書いた時はザイルにブルージック等でぶら下ったことです。念の為—スミマセン!!)。

登るにつれて水は冷たくなり、気温も20度をきり(場所によって16度) 水に濡れた衣服をとって肌寒く感じます。水量はダンダンと少なくなり、真直ぐの狭いゴルジュが稜線まで続く谷の入口が最後の分岐で此所はコースを間違えそうです。…がリーダーは地図どおりゴルジュの左の壁に滴る水をめあてにツルツル滑る壁を20m程フリーで登って行きます。ハイ、どうぞで一人一人とユマールをセットして登ります。最後の私はザイルで引っぱってもらい両手が空いていますのでフリースタイルでトップで登ればと考えつつ行動したのですが、高度感があり途中で1・2ヶ所のピレー点があればと思いました。それより先に最後の滝が続いてますがリードよく難無く登れて微かな踏み跡をたどり細川尾根へ飛び出し直ぐ近くに武奈の頂上があり、大いなる満足でした。14時30分。

頂上でバンザイとカンパイも行動のうちで一服を付けての話に梅津営業所より参加のH君が前回(貫井谷)より半程度の疲れで早く登れて楽々だったの声に皆で大笑い、楽々ついでに下山も楽しませんかの声があり!! (めずらしくリーダーが同意)それならばとゴンドラとリフトを乗りついで下山、終バスにも乗れ(17時05分)比良駅へ、少しの待ち時間で電車に(今日混んでました)乗れて無事全員帰宅したことを報告いたします。

【参加者】 R 広沢誠吉、森本清一、伊藤タカオ、古井秀和、と私でした。

以上

# 山癡雜記 三十五

伊藤潤治

岳山・565m

京都北山の天狗岳を7月6日に予定したが、雨のため13日に延ばす。この日も雨であったが、ええ加減に何とかせんと、と家を出た。北小松図葉での未登は天狗岳と岩阿沙利山であったから途中まで走っている間に、せっかくの天狗岳をこんな雨に登るのは勿体ない。今日は岩阿沙利山に登っておこうと気が変っていた。R161号の北行で、登山口が載っている彦根西部図葉を持っておらぬのに気づきどこで尋ねようか、と行く内に、折よく高島警部派出所があり、飛込んで気がつくと、私は岳山に登りたいのですがと尋ねていた。若いお巡りさんたちから親切に順路を教わり、琵琶湖国定公園図と比良山系概念図のコピーまでもらって、感激のうちに音羽の大欲神社につく。あとから観音霊場巡礼のバスが着き、私たちを見て、岳観音は18町も登る険しい山で死ぬ程の苦痛をなめねばならぬなどと話合い、にきやかであったが、あっという間もなくその善男善女は消えていた。

合羽のズボンと傘で左に小田川の溪流を聞いて行く。やがて道幅がせばまり窪には小さい谷川や可愛いく落ちる滝が続いた。暑くて辛抱できず合羽を脱いで露岩の点在する斜面に行くと、立派な石灯ろうが立ち展望台のような地点。雨はやみそうであったが視界は白くガスが閉ざしていた。この先に「白坂」と呼ばれる美事な風化岩帯や弁慶の切り石とか不動尊の湧水があって、岳観音のささやかなお堂が結構な水場と共にあった。敬げんの気持がわき何ともいえぬ感動であった。

ちょっと険しく思ふ所や名のありそうな巨岩を経て、また中年男1と娘2の下山と会い岩の祠を祭っている岳山に登りついた。岩阿沙利山をめざしてここにきたのだが、取立てていえないが、確かに染み入る力強くさわやかな山肌で岳山がこれほどええ山であって、謙虚に本日はこれまでという事にした。下山は雨になり中退はよき判断であったようだ。

## 京入道

KクラブのO氏から綾部図葉の△628.7mの山名は、京入道と教えてもらっているけれど、友人によると和知町観光案内には恐入道と書いてあるそうです。どちらが正しいのでしょうかと電話があった。

ところが山名は既知であっても私は未登であって、せっかくながら何ともお答への仕様がなく、O氏の確認行を期待するのみであった。しかし私にもわかに興味が募り点名を調べると篠原であった、気軽な距離なので7月26日篠原へ京入道を探して行く。

先づ70才の村人は、ここではキョウニウドウを知らぬ者はないだろうとおっしゃっていたが、

京入道か恐入道かの判定はしてもらえなかった。

登山は寺院記号付近にコースを予定しており寺院を訪ねた。和尚は昭和55年のご着任でご存知でなかったが、流石に仏道のお方。心当りへ電話で尋ねていただくなど身にあまりご協力のお蔭により、山本実氏から京入道を確認。また京入道は登って見れば分るがマンドリ(万鳥)の上に乗った格好であるなど、登るコースもいろいろ説明していただいたのであった。

道は寺院の裏から竹林ちょっとで左右が人工林の右岸になる。左岸の枝打ち林を縫うことわずかで植林は、灌木の生えこむ生垣状で終り踏跡の左右に分れていたのを右にとって谷の窪を急登した。左右も急斜面だが松茸山とのこと。

窪は徐々に平となり緩やかな雑林に上った。そこから不思議でならぬたのもしい道が始まり間もなく広い灌木林にかかった。この辺りがマンドリなのであろう。通り抜けて一段下ってブナの爽快な尾根の登りになる。こんな山にこれ程立派な樹林があるとは面喰った。△は疎林にあって展望はなかったがさすがしく、私は京入道の美しい樹林にすっかり満悦してきた。

## 香住図葉の山 I

### 久斗山

登路は香住町では小原、守柄、市午などだが無雪期は、浜坂町の中小屋が最適と分った。中小屋の中村道昭さんを再訪して、夫人から私の前回の足取りは飛でもない間違いでした。あんな所までよう行けたもんだとあきれられた。幸い今日は草刈りに沢山入山していて、その人たちに会えるだろうから心配はないが念のためとおっしゃって、急所の助言をしっかりと賜った。

中小屋に出合いオラガ谷は小規模だが、岩床の岸を左右に縫う変化の美しい溪流である。16日ぶりのオラガ谷は除草されて見違えるきれいさで続き、前回の誤認地点をあとに教えられてきた本流の滝をまたいだ、これかと感動した。前回のコースとは雲泥の差である。右岸の急登も心が弾んだ。50mほどで振り返ると前回歩いた尾根があり感慨無量。

左へのトラバースで尾根に上って行くと、稚樹の立つ斜面が左右に展開し、作業の人たちの声がきこえ姿も見渡せた。その人たちを訪ねて行くべきであったが、そのまま尾根をたどる方が近いと判断し、とうとうその人たちに尻を向けて、町界稜に上り右折してめでたくⅡ△670.9mに登達した。やっと登れた感動の山頂であるのに暑い日ざしであってもガスあって展望不良。ナツツバキの花に会えたのはよかった。

帰路は南へ豪快な自然を造林地に抜け、立派なワサビにありつき往路を中村さん方に下山。冷たい飲料をご馳走になり重ねてお礼をのべて、国道9号に出て温泉町で入浴の上、その夜は村岡町小城の中山さん方で泊った。

### 小城山(こじやま)

日本山岳志に「射添村ヨリ一里十二町ニシテ其山頂ニ達ス。一とある山。この射添村は現在の村岡町川会であろうか。

雨に気づいたのは眠くて時計を見なかったが、まだ19日であったと思う。鶏鳴が4時すぎ、ウグイス・ホトトギス・カナカナゼミの声も続いたが雨はやまなかった。

この日は小城山のあと白菅山も登る計画であったから5時30分には出発するつもりであったのだが、近頃は雨に対して、ちと上品に振舞い癖が付き6時すぎで準備にかかり、ようやく8時すぎ小雨のなかを小城越えに向った。中山さんは道に草の邪魔はないと送り出してくれたが、いくら保証してくれた道でも、こんなさっぱりした道は知らない。深々と茂る緑樹下でこれほど小気味よい土の道は、ちょっとそこらにはないだろう。きれいな緑に縁取られたこの道を、私は黄金の小径と賛えておきたい。

小城越えには、知らされていなかった皆伐斜面と三川山の明るい展望が待っていた。ここで黄金の小径と別れて尾根の伐採線ぞいを登った。雨はいつしか降りやんでいたが伐採のお陰で、藪にぬれることなく日高町界に至ると、すばらしい天然林であり霧を浴びることになった。

▲ 831.1mには、平たい山頂であるのにぬれたくない心情から、左寄りのきれいな疎林を歩いたため、矮樹群に遮られていささかこずった。

中山さんによると日本海や伯耆大山が見えるそうだが、この日は三川山も白菅山も見えぬ小さい草地で、わずかに蘇武岳方向が開けているだけであった。なお村岡町林務関係者たちは、おじょ(小城の上の意の由)を呼称されているそうである。

いい気分で黄金の小径をもどり神社にお参りし裏の冷たい溪流で汗を拭いて中山さんに帰ると暫らくして雨が降り出した。次いで白菅山にはとても登れぬ雨だった。

## 白菅山

日本山岳志は、但馬国美方、城崎ノ二郡ニ跨ガル。村岡町ヨリ一里三十四町ニシテ其山頂ニ達ス。と記述しているが、この美方、城崎の二郡にまたがる。というくぐりはどうしたことなのだろう。

8月1日、村岡町に行き尋ねてみると、白菅山は註記どおり地形図の位置が正しかった。中年程の方なれば小学校の遠足で皆さん登山なさってお出で、往時は三軒屋、和佐父から登られた、その登路は現存するそうである。しかし私は勝手ながら林道利用で参りたく、林道事情をうかがうと、決壊箇所があってその通行可否を建設会社へ電話して下さったが、あいにく不在で確認はとっていただけなかったが、もう竣工している頃だから通れるでしょうと林道ならびに登山道の概念図をいただいて村岡町役場へ出た。

未知のルートは不安もあるが実際に走ってみるとたのしい事の方が多い。通行禁止が大書してあったが事情が分っているので構わず走り予告のお陰で決壊現場に近づくと、それとなく気配で感じ修復できてもガードレールまだの、殺風景なそこと驚きもなく無事通過したのであった。急崖部を過ぎると緊張から開放された車道になり、やがて路面に土砂を取除いた新しい跡やその作業の人の姿を見て神鍋分岐。そこにも村岡町の通行禁止が出ていた、どうやら私が今年の林道一番乗りのようである。

この分岐から左へ尾根を林道で越えると白菅山が見え登山口につく。役場から距離約10キロ、



所要時間33分であった。そこにも、頂上へ700m、約25分が案内してあった。この村岡町では残っているブナ林を営林局から買戻し、大切に保護できることになったと張り切ってお出だった。

登路はそのブナ林の笹を広く伐払って造ってあって、実にすばらしい。私はこの700mをのびやかに3倍たのしんで、Ⅲ△896.6mに上っていった。

そこはウツギ、レンゲツツジの幼木の点在しているススキの原とカラマツ林、栗の目立つ雑林に分れていて、△も展望も明るいススキの原に、△は頭部欠損、黄ペンキ塗。展望は小城山、三川山、蘇武岳、とそよ風のあるいい頂上であった。

このあと但馬竹田凶業の朝来山に登るべく朝来町に行き、納座まで入れれば違ったかも知れないが、伊由市場の神社に集まっていた里人たちに、指さしてあの山に登るにはと尋ねたところ、愛宕さんの道は立雲峡よりないと口をそろえて教えてくれた。

その立雲峡は峡谷でなく大駐車場にちょっとした休憩施設を備えた花の名所で、桜樹に包まれた緩斜地であった。

かなり暑さに参っていたが、16時すぎ草いきれの遊歩道をのぼり「愛宕山450m。竜宮の滝250m」で滝道に入った。涼を欲しひどく冷気に飢えていたからである。

けれどどこかで水音のする草地の露岩を前にして、道は行詰り滝はと探せば彼方に如雨露(じょうろ)位のもの。あきれながらつる草の絡んだ岩を渡り、土中からコポコポ鳴りつつ流るる落口に上った。珍妙な滝だろうが期待がすぎあほくさかった。

滝から愛宕道に出会えると思ってきたが、辺りは伐材群が散乱し道不明。やむなくトラバースで植林に入る。そこに滝の水源と考えられるせせらぎがあった、それを水上へたどって踏跡に導びかれていくと、思いがけない林道に出た。朝来山は頭上にのぞめたが寝食の準備にからねばならぬ17時20分であり、立雲峡にもどることにした。が尾根からトラバースをたどり歩道に出たものの、なぜか不安を感じわざわざ尾根を模索彷徨する無駄骨を折る念の入った不覚続きの午後であった。竹田の町の水道で汗を拭い冷えたビールを求めて帰り痛飲。さっぱりしたがよほど消耗していたか、食べずに車で横になってしまった。

## 朝来山

翌日は未明に起き食事のあとグラウンドシートに転がる。寒くなりシラフで寝直し5時45分出発。だがどうしたことか物曇り蒸暑かった。清楚な社が大岩とともに立つ愛宕さん6時10分。林道が6時20分、きのうは75分を費やしている。

山側美林の幹に何かの目印だろう、英・仏両国旗が結んであるのを経て林道終点6時33分。ねらいたがわずの山道があり踏込み第一の左道へ入った。手入れの目立つ保育林が続き、上限の灌木帯を突破すると、右から踏跡をしるした立派な尾根がきていた。ブナの巨木が立ち小鳥の声のひびく雄大な斜面を感動感動で後線に登り左に振ると、和田山側は皆伐され夏草ぼうぼう。

草が露を宿していたから瞬く間に水を浴びたようになる。眼鏡は曇り目に汗がしみ全身冷たくむずがゆい。暑い草いきれとどちらがいいだろう。こんなあまりありがたくない朝のもてなしを頂き

垂形櫓の立つⅡ△756m着は7時47分であった。

日本山岳志に、朝来山(別称粟鹿山、愛宕山)但馬国朝来郡丹波国氷上郡ニ跨ル、朝来郡粟鹿村大字粟鹿ヨリ凡一里四町、氷上郡神楽村大字稻土ヨリ一里十四町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千七百七十六尺。

秋の色は朝来の山の唐錦 露いかなれば分てそむらし

読人不知

がある。これはこの朝来山ではない。朝来の△で目をこらしたのは伐採面。竹田城跡を囲む金梨山、大倉部山など箱庭の景観。それと櫓の空をすいすい遊泳していたトンゴの群れ。

9時35分に立雲峡に戻り、用意のポリタンで水浴、さっぱりしたが、とても猛暑のため欲も得もなくなり婆々山、上生野山の予定を断念して、家路についてしまった。

## 例 会 報 告

例会No	目的地	月 日	天候	担 当 者	参 加 者	記 事
1598	由良川源流	8月23日 ～24日	雨 後晴	鷺見 敏一	大槻 貞従 井戸 澄夫	長治谷の夜営では夜半からの雨で、作業小屋の軒先で雨宿りをした。さすがに虫が多く火取線香をぶらさげての山行であった。
1599	藤 内 壁	8月29日	雨	吉田 武	大倉、台川 森本、 ゲスト 1	29日だけの日帰りに変更したものの、視界のきかない土砂降りの雨のため途中で引返した。 ドライブしに行ったようなものだった。
1600	藤 原 岳	9月 6日	晴	大槻 雅弘	岡田、大槻 伊藤、津田 奥村、和田 武田 F1	長い一日であったが、縦走コースを歩いたことで記念となった登山であった。 スタミナもいる山行であった。(次号報告)

## 部 員 動 静

目的地	月 日	天候	参加者	記 事
御岳 乗鞍岳	8月 2日 ～4日		大倉寛治郎	妻と子供をつれてのファミリー登山。 木曾駒ヶ岳下の菅ノ台でキャンプをした。
十 勝 岳	8月 9日	晴	大槻 雅弘	短時間で登るにはどうすればいいだろうか。登山口のレスト、ハウスのお兄さんに、「明日往復4時間程で十勝を登りたいが」と聞くと、「お客さん無理ですよ」と一蹴された。でもAM5:35十勝の頂上に立ち、雲海の彼方に大雪山、日高山脈、夕張山脈を見ることが出来た時は、感激と同時に24年前北海道のカニ族時代に大雪に登ったことや、京交35周年で登った時のことが昨日のことのようによく思い出してきた。 北海道の「ヘソ」と言われるこの地域から360°展望を楽しみ東の間の駆足登山を終えた。 〔コース・タイム〕 望岳台 3:30…4:07 避難小屋…5:35 十勝岳(2077m 9°J) 6:00…6:36 避難小屋…6:50 望岳台
愛宕山	8月27日	晴	大槻 雅弘 佐伯 康介	職場の懇親会を兼ねて山頂にてバーベキューをやった。25kgの荷物を担いで登った。他14名。
愛宕山	8月28日		大木 秀実	職場の仲間と登った。
西 穂 高	8月29日 ～31日		岡田 茂久	ファミリー登山。行くまでの道中は土砂降りの雨であったが、幸い西穂では晴れた。中尾温泉でキャンプした。

# 雑 報

## ▲ 9月の集会

出席者 本局 大槻 雅 方山、大木、井上 梅津 吉田 O B 坂井、伊藤  
高速 岡田 烏丸 大倉 九条 和田 以上 10名  
インドア 「無積雪期の生活技術」 岡田茂久  
・ ランタンのボンベの取替方の実習 その他  
例会報告、 その他

## ▲ 他山岳会の会報（受贈分）

わっぱ（№49～№52）、 山岳巡礼（№59～№61）

9月号 山友、近畿山行、北山、京都山岳、趣味の登山、一等三角点、青嶺、木雞

## ▲ 京都府民総合体育大会

### 1) 第5回京都府登攀競技会

期 日 昭和61年10月19日(日) 小雨決行

会 場 京都市左京区大原 金毘羅山 M K

出場申込 10月9日までに進行必要がありますので、参加希望の方は下記へ御連絡下さい。詳しい実施要項もあります。

### 2) 第3回 京都府踏査競技会

期 日 昭和61年11月9日(日)

会 場 京都市左京区静原キャンプ場周辺山城

申 込 10月31日までに進行必要がありますので、参加希望の方は下記へ御連絡下さい。詳しい実施要項もあります。

上記の 1)および 2)についての申込みやお問い合わせについては

本局 鷺見敏一 または 大木秀実 まで。

帆 布 ・ 濾 布  
テント ・ シート  
雨 合 羽

### 木村工業有限公司

京都市中京区ミブ車庫前  
TEL 801-5331 (代)  
西大略営業所  
下京区西大略七条下ル  
TEL 321-0251

### 愛されるスポーツ店 京菱運動具店

本店 下京区大宮通松原上ル  
TEL (801) 1331  
十条店 南区竹田街道十条上ル東側  
TEL (691) 8041  
伏見店 伏見区柏耆町西友ストア4F  
TEL (623) 0824  
山科店 山科区音羽野田町1番  
西友ストア-山科店  
TEL (592) 9770 内線228

営業時間 一年中、山用品だけの  
プロショップ  
午前10～午後1時と午後3時～午後8時  
(午後1時～3時は閉店させていただきます)  
<定休日> 火・水曜日

### 山・アウトドア プロショップ ログケビン



京都市中京区御幸町通  
蛸薬師南入  
(四條河原町・阪急河  
原町より徒歩約4分)

建設省国土地理院発行地図販売特約代理店

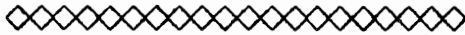
あらゆる地図のご用命は  
株式会社

### 小林地図専門店

600 京都市下京区烏丸通六条下ル  
TEL 075(351)6598 (代)  
地下鉄：烏丸五条 6番出口南50m  
市バス：烏丸六条下車

昭和61年10月1日

京都市中京区壬生坊城町48  
京都市交通局内  
京交山岳部



お知らせ

今度、当チロル店舗は近代ビル改築計画に伴い、一時立退きと相成りました。改築期間中(約1年間)は、本店2階にチロルコーナーとして継続営業いたします。



移転先 本店2階

京都市中京区西ノ京町24

ダイヤ運動用品株式会社



まかせて下さい...ネ



☆在庫豊富にとり揃えています  
☆山の道具は セヒ 御相談下さい

山とスキー専門店  
ビッグ・ホリック

河原町店 上・河原町通丸太町東入

TEL 222-0363

御婚入  
御引越



専門

ぎおん菊水運送株式会社

山科配車センター

京都市山科区西野山階町 12-12

TEL (075) 581-3101

本社

東山区大和大路四条下ル 541-2345

夷川営業所

中京区室町二条上ル 256-3059

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品  
仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品

贈答品総合センター

厚生会指定

サンコークラフト

西島輝雄

左・川端丸太町下る下堤町88

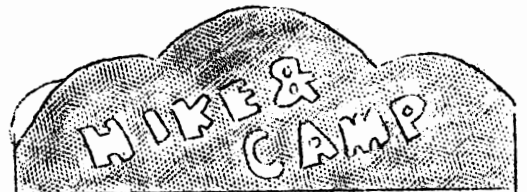
TEL (075) 771-3442



山とスキーの店  
京店 ありを

京都市中京区新町三條上ル

075-255-0288



お馴染の事なら、エニツが一番です!

御来店ありがとうございます

山とスキー レジャー スポーツ ショップ

そして

海の



中・二条通河原町西

TEL 231-1202